

ブランドン トロポフ 元キリスト教徒の米国人 (前)

:

明:

における最も真正なくだりであるとされる「Q 料」の研究が、彼をイスラ ムへと きます。前 : 的
リスト教における 。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: ブランドン トロポフ

日 08 Jul 2013

集日 08 Jul 2013

改宗の波

もしこれを んでいるあなたがキリスト教徒なのであれば、イエス（神の慈悲と祝福あ
れ）の信仰が、 在メディアで喧 されているような、世界中で を き起こしている人々と
同じものであるという考え方は、突拍子も いものと映るかも知れません。私も福音 の
研究を始める前は、そういった考え方に初めて遭遇したとき、とんでもないものだ
と思いました。しかし、非常に多くの 代キリスト教徒たちが、福音 のメッセ ジとイスラ
ムとの を基に、人生を える 人的 を き出しているという事を知るべきでしょう。

「9 11以来、イスラ ム改宗者の急 が、有力な根 と共に 告されています。それは英国だけ
でなく、ヨ ロッパ全体と米国においても同 です。オランダの某イスラ ム センタ では10
倍の 加が、そしてレスタ の元カトリック アイルランド人主 によって されている『ニユ
ムスリム プロジェクト』では安定した 加 向が 告されています。』（ロンドン タイムズ
、2002/1/7)

主流メディアによるだんまり

欧米メディアでは、世界全体でのイスラム改宗者 加の 例をほとんど じませんが、もしそれらの人々の多くが私のような人物だったのなら、イエスの指示に うことなく彼を「主」と呼ぶことに 念を感じたのではないかと推 します。彼らはメディアの じる社会情 などよりも、そちらの方をより重要 したのです。

このような 念は、人々の人生を えてしまうのです。

Qの挑

人的に言えば、私が自らの人生を えた理由は、今日の最も著名な（非ムスリムの）学者たちが、 存する最古のものであると なしている福音 のくんだりが暗示するものを することが出来なかったからです。

これらのくだりは、Qとして知られる 料を再建し、そのすべてを新 の中から いたすことが出来ます。それらはほぼ に、イエス（神の慈悲と祝福あれ）が に言ったとされる、私たちが今なお触れることの出来る真正な口 に最も近いものです。

イスラムを するQ

Qについて知らなかったのであれば、新 学者たちがこれまでに した、福音 における他の部分よりも教育的であるだけでなく、 史的にも 性の高い特定のくだりが存在するという ことを知るべきでしょう。この研究成果によって、学者（また少数の一般人の）で は めて魅力的な につながりました。

Q 料は、イエスが神によって遣わされた人 の 言者であるという、ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）の教えを する 向にあるのです。

人 の 言者

Q 料の を明したのは私ではありません。それは 年に渡って存在していたものです。「 派」キリスト教 者 神学者たちは、一般的にそれを めません。彼らによると、Q 料の研究者たちはイエス（彼に平安あれ）の地位を めるのに勤しんでいるというのです。しかしには、私たちはイエスが本当はどういうことを言っていたのかを突き止めようとして いるに ぎません。

Q 料は、近代キリスト教への挑 を挑むものです。なぜならそれは、イスラ ムによるイエス像が 史的に正しかったことを く示唆するからです。Q 料が事 上、イスラ ムのイエス像を しているということは、今日のキリスト教徒たちによって く 知されてはいません。典の 密な は、イエスが には人々をイスラ ムへと呼びかけていたことを明らかにします。

私をイスラ ムに いたイエス

私は 的キリスト教への数十年に渡る え ない不 の末、イスラ ムに辿り着きました。アルハムドゥリッラ（神にすべての称 あれ）。2003年の3月にイスラ ムへ改宗して以来、たくさんの改宗 を みました。福音 が原因でクルア ンを受け入れたというものを殆ど かけたことがありません。私にとっての改宗理由はそれでした。

私が育ったのはキリスト教的な家庭ではなかったにも わらず、11 のときから福音 に惹かれており、自ら 的に みふけていました。やがて私は宗教的な事柄は内面にしまっておくことを学びました。

初期の疑

青年期になると、私はキリスト教の 典を独学で学ぶようになりました。子供のときになった、赤い 定 もまだ持っています。そこにあった自 のメモは、私が1974年の6月26日に、イエスを自らの救世主として めたことが されてあります。

私は 典を 的に みふけたと既述しましたが、それはマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音4 をむさぼり んでいたという意味です。私の には、 篇、 道の、 箴言にも 山のメモが かれていましたが、大半のメモや下 は福音 にありました。しかし、私が したそれらの テキストは、少年だった私にさえ内的葛藤をもたらしたのです。

福音 を き えた者は か

ルカ の22章で、イエスが弟子たちから れて祈りを捧げ、 ってくるると彼らが熟睡している 面を んだときが明白に に残っています。一体 が、彼が礼 しているのを目 し、その出来事を 告し、福音のルカ に めたのでしょうか？

また、私が福音 でおかしいと感じた 所に、イエスの った言 とされる、「む者には理解させよ」というくだりがあります。さらに、新 の著者が1世 のキリスト教徒たちに、メシアの再 が彼らの 代に起きることを保 する 面があります。近代キリスト教の教 において、私が相容れないと感じた部分です。私が15 にも していなかったとき、これらやその他の疑 が浮かび上がりました。 かが福音 を改 したのでしょうか？

もしそうなら、一体 が、何のため？

私はこれらの疑 をとりあえず のために「封印」し、 は私が敬虔なキリスト教コミュニティに属していないことであることにしてしまいました。

カトリック

18 で、私は 部の大学に通い始め、ロ マ カトリック教会に入会しました。大学では美しく思いやりのある女性に出会い、彼女は私の人生における善き伴 支持者となりました。彼女は信仰心が いとは言えませんでした。これらのことが私にとって重要であることを理解し、信仰の支えとなってくれました。彼女の 尽 であるかのような さ 支援 情 と、私たちの れ初めを数行の文章に凝 してしまうことは、彼女に する大きな不 です。

者との出会い

私は かつ敬虔なキャンパス 者に、私が を抱えていた福音 のくだりについて ねましたが、彼は冷静さを失い、 を えてしまいました。 の 会に、彼には私がヨハネの福音 を集中的に学んでいることを えていました。というのも、その福音 は の出来事における第一人称の 告だった（と私は当 思い んでいた）からです。

彼はまたしても口ごもりつつ を え、他の福音 に するひとつの福音 の 越性については たりませんでした。彼は に、福音4 はすべて重要であり、すべてを学ばなければなら ないと言い りました。この出来事は、私にとって 果的にひとつの となりました。

キリスト教、それともパウロ神学？

これは私の人生 ではなく改宗 であるため、数々の重要な出来事を早送りします。あの敬虔なキャンパス 者は、私と恋人の 婚を取り持ってくれました。私たちはマサチュ セ ッツの郊外に居を え、お互いに を持ち、3人の美しい子供たちに まれました。私は を む を てませんでした。私は「灯火と目」、「放 息子」、「真福八端」、祈りの重要性や、その他多くの言 にかつてなく魅了されていました。しかし私は、新 の「造」にまつ わる 、特に使徒パウロのそれに を ませていました。パウロが 展させた神学は、イエスの の言 には基づいていなかったという事 は、私にとってはとてつもなく大きな でした。

1990年代の中 、私と妻はカトリック教会に して深く失望していました。その原因のひとつに、コミュニティの要望に全く注意を わなかった に酷い 者がいたことです。日、彼は幼 虐待者をかかっていたことが分かりました。

プロテスタント

私は信仰深いコミュニティに属する必要性を感じていました。私は地元のプロテスタント教会の一派である会 派教会に入会し、活 を始めました。

私は子供たちの日曜学校だけでなく、一般 向けの福音 のたとえ のクラスも担当しました。日曜学校では与えられたカリキュラムに沿った教育をしていましたが、一般向けのクラスでは、参加者に し、彼らが使徒パウロの色眼 を通さずして、特定のたとえ に直接向き合うよう挑んでみました。そこでは 味深い もありましたが、一部には抵抗があることも感じたため、それ以来一般向けのクラスは担当しなくなりました。やがて、妻も教会に参加するようになりました。彼女は今 在もそこに所属しています。

当 、私はキリスト教の秘教的 と、ス フィ 、そして禅 教の共通点に深く 心を抱くようになっていました。私はその主 で き物をしたためた程です。しかし私の通う教会には、こういった分野の 味を私と共有してくれる人は 一人として つけることは出来ませんでした。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/475>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。